

令和3年度 第2回下松市地域公共交通活性化協議会

議事要旨

○日時：令和3年12月20日（月）13：30～15：20

○場所：下松市役所 1階 103会議室

○出席委員：20名（欠席1名）

真鍋委員、斎田委員、河内委員、田村委員、河村委員、清水委員、田中委員、
六反委員、相本委員、村元委員、古田尊委員、蔦委員、栗原委員、壽恵村委員、
原田委員、深町委員、古田健委員、伊藤委員、安野委員、金織委員

○事務局：企画政策課

○オブザーバー：株式会社バイタルリード

1 開会

2 議事

（1）地域公共交通確保維持改善事業・事業評価（コミュニティバス・米泉号関係）について

- ・令和3年度国庫補助（事業期間：令和2年10月1日～令和3年9月10日）に係る事業評価について、協議・承認を求める。
- ・米川地区～花岡地区を運行するコミュニティバス「米泉号」は、住民からの要望を受けて新たに上地上停留所を設置するなどしたが、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、1カ月当たりの利用者数は目標値の138人に届かず、93.9人に留まった。よって、「事業実施の適切性」は評価A（適切に実施された）、「目標・効果達成状況」については評価C（目標は達成できなかった）としている。
- ・今後は、公民館と連携した住民ニーズの反映や、新たに導入した予備車を活用した試乗会の実施による認知度向上等により更なる利用者の拡大に努める。

発言者	発言要旨
会長	質問やご意見等あればお願いしたい。
委員	事業評価は委員の皆様にご確認いただいた上で提出いただくものである。先日、市にヒアリングを実施したが、利用者の声の吸い上げには公民館が大きな役割を果たし、またアンケート調査を実施するなど、住民の意見を吸い上げる体制ができていると感じている。令和3年度はコロナのこともあり定量的な数値は達成できなかったが、新規利用者の獲得など、引き続き適切な事業の実施に取り組んでいただきたい。
事務局	ご指摘いただいたとおり、公民館との協力やアンケートを引き続き実施し、1人でも多く使っていただけるよう改善に努めたい。
委員	住民のニーズに応じていただけるのはありがたいが、住民から無理難題を言われたりすることはないか。私は地元で数年前から移動販売に力を入れているが、住民から、家まで運んでほしい、今度は家の電球も換えてほしいと販売以外の多くの要望が出て、事業者から苦情が来ている。

事務局	米川地区、花岡地区の方から無理難題が出されているようなことはない。住民からの要望で言うと、今はサンリブまでの運行だが、下松駅の方まで延伸してほしいという声は運行当初からある。これについては引き続き検討したい。
委員	周南市からコミュニティバスが米川公民館で米泉号に接続しているが利用状況はどうか。
事務局	もともと魚切まで運行していた防長交通のバスが大藤谷までに短縮になった際に、周南市では八代地区から大藤谷までコミュニティバスで接続するようにしていた。その後、防長のバスの大藤谷までの系統の廃止に伴い、下松市では米泉号を導入、同時に周南市にも情報提供し、周南市は米川公民館まで延伸してつなぐように手立てをされたという経緯がある。 八代地区の利用者は1便あたり多くて2人。利用便は第2便が多いが、ほかに定期的に土曜日に乗る方もいらっしゃる。今年度は、追加便（車両定員が上回った際に追加で運行する車両）が出ることもなく、八代地区の方の利用があっても圧迫するような状況ではない。
会長	案について採択をいただく。併せて、国への登録申請の過程で軽微な修正等の指摘があった場合は事務局の責任において修正し提出することに承認いただけるか。
各委員	(全員挙手)
会長	全員挙手と見受けられる。承認いただけたということで山口運輸支局へ提出する。

2 報告事項

(1) 米泉号の1年間における利用状況について

- ・令和2年10月1日～令和3年9月10日の1年間について報告する。運行日数は293日で利用者はのべ2,752人である。令和2年10月は1カ月間の利用者数としては過去最高の300人だったが、新型コロナウイルスの影響で、国内のいずれかの地域で緊急事態宣言が発出されている時期は米泉号の利用も落ち込んだ。
- ・曜日別では木曜日、火曜日が多い。便別で月は2便（8:49 米川公民館発）が突出して多く、逆に3便（13:30 米川小学校発）が最も少ない。
- ・バス停別では、サンリブ前が最も多く、次いで花岡駅前、予約運行エリアが多い。米泉湖周辺や花岡駅まで定期的に利用する方が確認されている。令和3年1月に新設した「上地上」は、約10カ月間で72人の利用があった。
- ・予約運行エリアでの予約者については、実予約者は19名、総予約件数は720件。本格運行初年度であった昨年度と比較すると、総予約件数はほぼ変化がないが、実予約者数は半数以下に減少しており、お試し的な利用が減少したと考えられる。
- ・11枚つづりの回数券は1年間で100円券が113セット、200円券が141セット、300円券が49セット販売された。令和2年4月より、運転免許返納者への記念品として、米泉号の回数券（100円券2セット）が選べるようになり、この1年間で3件の申し込みがあった。
- ・広報として、令和3年1月のバス停追加及びダイヤ改正に伴い、チラシと乗換案内を

作成して配布した。また、米川公民館ののりば前が雨天時にぬかるむため、コンクリートパネルを設置し乗降しやすい足場を確保した。

発言者	発言要旨
会長	事務局から補足はあるか。
事務局	今年度、米泉号の 2 台目の車両を購入した。現在、坂道を含めて年間 42,000km 程度を走行するという過酷な使用状況であることから、2 台目をうまく活用しながら車両の長寿命化を目指すとともに、各地域での試乗会を開催するなどの活用策を考えている。 また、追加資料をご覧いただきたい。地域公共交通センターの HP に米泉号の取組を掲載するためにこのような資料を作成した。
会長	何か質問があればお願いしたい。 市役所の中でも各課の施策を組み合わせできないかと、福祉と地域コミュニティという面から免許返納に着目し、資料 11 ページにあるように記念品の 1 つとして回数券を選べるようにした。回数券選ばれたのは恐らく米川の方だと思うが、免許返納のときにも公共交通について PR したということによいか。
事務局	その通りである。
会長	警察から、バス車内にチラシを掲示してはどうかという意見をいただいているが、これについて状況はどうか。
事務局	実証実験の際は掲示したが、本格運行後の今は掲示していない。協働してやっていきたいのでお声かけいただければと思う。
委員	運転免許の自主返納をされる方が最近多くなっている。下松警察署では平日の執務時間内で取り扱っているが、警察や交通安全協会からの特典のほか、窓口担当者から市の記念品についても広報している。自主返納者やその家族は、移動手段がなくなると心配されている方も多いため、公共交通機関があるということを提示できると私たちもスムーズに手続きが行えて良いと思うので、今後も市役所と協力したい。
会長	いろいろな機関が協力し、ウィンウィンになるよう進めたい。 他に意見はあるか。 今後ともより地域に親しまれ、利用が増えるように進めさせていただきたい。報告事項 1 については以上とする。

(2) 下松市タクシー運賃助成実証事業について

- 本年度、山口県の「新たな地域交通モデル検討委員会」とともに「下松市タクシー運賃助成実証事業」を実施した。比較的タクシー需要の少ない時間帯に限定して、タクシーによって移動手段を確保し、交通空白地(坂のある郊外の団地や市街地の交通不便地域)対応と、タクシーの生産性向上の両立を目的としている。
- 実証実験の期間は令和 3 年 8 月 1 日から 11 月 30 日まで。当初は 2 か月間の予定だったが、8 月 13 日～9 月 26 日まで「デルタ株感染拡大防止集中対策」が実施され、外出回数や移動手段の選択に影響があったと考えられるため期間を延期した。対象地域は生野屋・

生野屋西、潮音町で、75歳以上の対象者1,276人に対して広報を行った。

- ・助成券の利用時間帯は11時半から13時半までは300円引き、13時半から16時までは追加で200円引き（計500円引き）となる制度とした。
- ・今回は中間報告として8月1日から10月31日までの3か月間の利用データを基に報告する。申請者は198名、うち実際に助成券を1回以上利用した人は85名で、3か月間で助成券がのべ777回利用された。
- ・時間帯別では、助成の対象時間が始まる11:00～11:30台と、助成金額が加算される13:30～14:00台にピークが見られ、助成時間帯を意識して利用されたと考えられる。
- ・買物や通院のほか、「食事・お茶」「銀行・郵便局」「知人と会う」といった多様な目的での利用が確認された。
- ・今後、11月分の利用状況を追加するとともに、タクシー事業者へのヒアリング調査を実施し、コロナの影響も考慮した追加分析を行う予定としている。

発言者	発言要旨
会長	県の協力をいただきながら、交通空白地対策として、そしてコロナ禍においてタクシー事業が厳しいということで何か協力できないかということもあって実施した事業と考えている。
事務局	助成券に手書きで記入する方法だったので、利用時間が適合しているかを確認したり、乗降場所の名称や地名を確認したりするのにかなり時間を要した。ただ、アンケートにもあったように、特に坂のある生野屋、生野屋西については時間帯を変更して利用しようという意識を持たれたとわかったことはプラスだと思う。より使っていただけるような制度の構築についてさらに検討を進めたい。
会長	事業者の目線からご意見をいただきたい。河村委員、いかがか。
委員	タクシー利用は通常、午前中が1番多く昼から少ないが、実証が実際に始まってみると生野屋方面や潮音町方面は11時台から、13時台からの利用が増えた。1日の中で利用される方の分散ができたということである。稼働台数は少なくなっている中、お待たせすることなく効率良く車両を回すことができたのは助かる場所もあった。コロナの状況もあって売上の前年度比較は難しいが、運転手はこの時間帯の仕事量が少し増えたと聞いている。
会長	清水委員、いかがか。
委員	市の取組はタクシー協会として非常にありがたく、県内で下松市が1番早くに取り組んでいただき感謝している。下松市の動きを見て他市でも追随するという動きが出ている。 この助成制度はタクシー会社のことも考えていただいている。 通常閑散期である13時半過ぎの時間は、すみやかに配車することができ、お客様にとってもお待たせすることがなく助かっている。200円と300円を足した助成券の利用枚数は、少ない日は2～3枚、多い時は10枚。この助成券で助かっているという声を聴いている。免許返納者に向けた1割引が有利な場合はそちらを使い、助成券とうまく使いわけていらっしゃった。お客様からはもっと助成がほしいという声を聴いている。

会 長	県の補助事業ということでやったが、今後は全体の状況を見ながら関連機関と連携して検討をしていきたい。
-----	---

2 その他（連絡事項等）

発言者	発言要旨
会 長	事務局より説明があればお願いしたい。
事務局	<p>市内そのほかの地域での現在の状況の1つとして、「久保地区での移動手段等に関するアンケート調査結果について」をご覧いただきたい。</p> <p>昨年11月に久保地区（東陽地区を除く）において実施した。コロナの影響でなかなか結果の報告ができなかったが、この10月に各自治会を通じて地域別に結果をお返ししたところである。</p> <p>対象地域が市街地から離れていることもあり、どの地域も車の保有率が8割近く、車がないと生活できない現状が見えてきた。買い物はマックスバリュ山田を中心としてそのほか近い施設、通院は周南記念病院ほか、近くのクリニックなどが挙げられている。</p> <p>すぐに新たな移動手段を確保するというのは難しいとご理解いただいております。地区では米川地区の「あったか便」のような取組を始めているとも聞いている。引き続き、少しでも地区にあった移動手段の確立に向けてできることから進めていきたい。</p> <p>また、資料はないが笠戸島地区も移動手段確立に向けて2年近く協議し、複数の案を示して協議しているところであるが、コロナの影響もあり協議が中断している状況である。地域からはじっくり腰を据えてよいものを作りたいという声をいただいているが、高齢化は待たなしの状況なので少しでも早く構築向け関係者との協議を進めていく。</p>
会 長	本日配布した「ICOCA エリア拡大に関するプレスリリース資料」について、田村委員から説明をいただきたい。
委 員	先週金曜日、来春のダイヤ改正と藤生駅～徳山駅間の運用開始について詳細をプレスしたところである。来年3月12日のダイヤ改正と同日に発売・使用開始となる。ICOCAには普通のカードと定期券の2種類があるが、みどりの窓口または自動券売機で購入することができる。下松駅には窓口もあるし、高性能の券売機も取付予定であるのでご利用いただきたい。ICOCA導入に伴い、従来の回数券が廃止になるのでご注意ください。また、ICOCAはJR以外にも電子マネーとしてコンビニ等も使え、タッチで改札を通過できるようになり大変便利なのでぜひ周知をしていただきたい。
会 長	交通事業者から状況についてご教示いただきたい。
委 員	今日の資料を拝見し、今年度、米泉号の利用者数は目標に達しなかったが、前年度に比較して大健闘されていると思う。防長交通はコロナの影響で減った利用者が少し戻ってきたとは言え、まだコロナ前の2割減の状況で、米泉号にこれだけのご利用があるのかと驚いた。ちょうどワクチンが打てるかどうかで不安に思われていた期間を含んでの数字であることも考慮すると、進め方によってはもっとよい数字が出るのではないかと思う。

	タクシー助成や移動販売の話もあったが、できるだけ利用者のお住まいに近づけるかがポイントかと感じた。我々バスは大きな道を通すことしかできず、そこが難しい。
委員	コロナの影響を受け、大変厳しい状況が続いている。一般乗合バスより高速バスがメインなこともありコロナの影響は顕著である。特に昨年の5月ごろなどは高速バス事業の収入はほぼ0と厳しく、現在でも半分程度と引き続き厳しい。一般乗合にもコロナの影響は出ており、元の8割～9割には届いてない状況が続いている。バス会社も感染症対策として、乗務員の健康管理、除菌、運転席回りのカーテン設置等の対策をしており、車内換気も5分もすればすべて空気が入れ替わるので、安心してご利用いただきたい。最近、変異株の不安もあるが、引き続き対策をしていくのでよろしく願いたい。
会長	県の支援策等について紹介していただきたい。
委員	今年度の事業者支援について紹介する。公共交通事業継続支援は、車両等を維持するのに必要な固定的な経費について補助を行った。昨年度と合わせて感染対策費用も補助する。また、燃料の価格高騰により負担が大きいことから、バス・タクシーについては上昇分の一部を昨年度すでに支出した金額の2割を上限に助成する。各協会を通じて案内して年度内に補助金が届くようにしたい。こうした補助金を通じて維持確保を図っていきたい。
会長	国の支援策等について紹介していただきたい。
委員	コロナの影響で依然として厳しい状況ということで、昨年度に続き地域間幹線補助金の要件の緩和をする。今日、補正予算が可決される見込みである。事業の効率化、高度化についての支援もある。詳細が分かり次第連絡するので、ぜひご活用いただきたい。
会長	最後に市の支援策等について紹介していただきたい。
事務局	昨年度、市ではバス・タクシーに1台あたりそれぞれ5万円・3万円を事業継続支援金として支援した。今年度は県や国の取組があるので現状特段の手立てはないが、必要な段になれば事業継続への施策を打っていきたい。
委員	米泉号はこの協議会で仕様等を審議して運行し、その結果が示された。利用率の問題はあるが、米泉号によってそれなりに助かっているということがわかった。タクシー助成についても利用されているということであった。世の中が変化する中、我々高齢者、免許返納を勧められる者は、公共交通を利用する立場である。通院や買い物などの生活の移動手段を確保するために、行政、関係部署にはご苦勞をおかけするが、この協議会を生かして推進していただきたいと思う。
会長	行政を含め地域でやらないといけないことはまだまだあるかと思う。
事務局	次回の協議会は、今年度の事業についての報告を予定している。来年3月上旬での実施を検討している。
会長	以上で第2回下松市地域公共交通活性化協議会を終了する。

— 委員名簿 —

	所属	役職	氏名
1	下松市	企画財政部長	真鍋 俊幸
2	防長交通株式会社	取締役 副社長	斎田 稔
3	中国ジェイアールバス株式会社	運輸部生活交通活性化推進室 室長	河内 政好
4	西日本旅客鉄道株式会社 山口支社	企画推進課 課長代理	田村 雅彦
5	メトロ交通株式会社	取締役	河村 英輝
6	一般社団法人 山口県タクシー協会	理事	清水 延隆
7	下松市自治会連合会	会長	田中 豊
8	シニアクラブ下松	会長	六反 弘道
9	社会福祉法人 下松市社会福祉協議会	常務理事	相本 美重子
10	下松市小・中学校 PTA 連合会 母親委員会	代表	村元 明里
11	下松市連合婦人会	会長	古田 尊子
12	中国運輸局山口運輸支局	首席運輸企画専門官	蔦 真
13	私鉄中国地方労働組合 防長交通支部周南分会	分会長	西林 光
14	中国地方整備局 山口河川国道事務所	交通対策課長	栗原 高己
15	山口県周南土木建築事務所	企画調査室主幹	壽恵村 良成
16	下松市	建設部長	原田 克則
17	下松警察署	交通課長	深町 健史
18	徳山工業高等専門学校	土木建築工学科教授	古田 健一
19	山口県観光スポーツ文化部	交通政策課長	伊藤 香緒利
20	下松商工会議所	専務理事	安野 政行
21	下松商業開発株式会社	代表取締役	金織 平浩